



University of the Ryukyus Library Bulletin. Vol. 24 No. 4 Dec. 14 1991.

ワトキンス・コレクションの収集とその周辺

我部 政明

琉球大学附属図書館にワトキンス・コレクション（ワトキンス・ペーパーとも呼ぶ）が所蔵されている。『沖縄関係資料目録、増加版』（琉球大学附属図書館、1978年）に、次のように記載されている。

Okinawan Papers deposited. M1092 ~ 1097
by James T. Watkins,
Stanford University Hoover Institution Greels.

Contents:

以下、内容が続く。

請求番号M1092~1097と記されていることから、この資料がマイクロフィルムの形であることがわかる。マイクロフィルムを入れた

ケースに、図書館の受付月日がある。昭和51年8月30日とある。

ワトキンス・コレクションとは、ジェームス・T・ワトキンスが沖縄に関心をもって蒐集した沖縄関係資料群である。それは、スタンフォード大学フーバー研究所に寄贈され、現在、同研究所文書室に保管されている。

まず、同資料を蒐集したジェームス・T・ワトキンスを紹介しておこう。沖縄大百科事典（沖縄タイムス社刊）によれば、次の通りである。

ワトキンス。James T. Watkins IV。生

目次

1. ワトキンス・コレクションの収集とその周辺	16
2. 医学部分館学術雑誌利用頻度統計について	18
3. 資料紹介：「Le Tour du Monde」(3)	23
4. 沖縄関係図書新着案内	15, 24
5. 教官著作寄贈図書案内	24
6. 〈お知らせ〉	
7. 図書館事情	

没年未詳。米海軍少佐。沖縄戦直後の海軍軍政府政治将校（1945 6.25～46.6.31）。海軍軍政府副司令官チャールズ・I・ムーレー大佐のもとで、戦後最初の住民行政組織で米軍諮問機関であった沖縄諮詢会の設立・運営に尽くす。当時の占領軍と住民との間のきびしい支配関係を〈猫・ねずみ論〉で説明したことで有名。退役後、スタンフォード大学の政治学教授となる。（宮城悦二郎）

なぜ、琉球大学図書館にワトキンズ・コレクションが存在するのだろうか。私が聞いた関係者の話を総合すると、1970年代前半に、当時、法文学部教授であった比嘉幹郎氏がカリフォルニア州にあるスタンフォード大学フーパー研究所に保管されているワトキンズ・コレクションの一部をマイクロフィルムの形で入手し、沖縄に持ってきた。当初、彼は彼自身の研究のために同マイクロフィルムを入手した、と私は推測する。だが、副知事になるので大学を辞めることになり、その際に、同マイクロフィルムを同氏から図書館が購入した、と聞く。マイクロフィルム・ケースに記載された日付からすると、1976年以前に図書館に入ったということになる。

ワトキンズ・コレクションの存在は、少なくともアメリカに留学し、沖縄の戦後史に関心を抱く研究者の間では知られていた。また、実際に論文で紹介されている。例えば、比嘉幹郎氏の論文（「政党の結成と性格」『戦後沖縄の政治と法』所収、1975年刊、217p）、大田昌秀氏の論文（「占領下の沖縄」『岩波講座日本歴史』23巻所収、1977年刊、p 339-340）などの注にて、その存在が紹介されている。ワトキンズ自身が1967年に、沖縄を再訪問したこともあって、彼の収集した資料に関心をもつ沖縄の研究者が増えたに違いない。アメリカの沖縄統治研究に多大な業績を残している宮里政玄氏（現在、国際大学教授、当時は琉球大学教授）は、彼の帰国後、手紙にてワトキンズ氏に対しワトキンズ・コレクションの収集協力を依頼している。

これまでの経緯を述べるのが、この稿の

目的ではない。また、沖縄関係資料の収集史を書くことでもないし、また私には、その力量はない。けれども、いわば戦後沖縄関係資料の蒐集家ワトキンズの周辺には、戦後史研究者群像を調べるうえで興味深い人物が登場する。このことは私自身の将来の課題、あるいは楽しみに残しておこうと思っている。

このワトキンズ・コレクションに私が関わりをもつようになったのは、戦後世界の中での沖縄という、何の意味だかわからないような研究を始めたのが、きっかけである。沖縄戦後史を調べていると、これまでに研究の蓄積があり、そこで様々な資料が駆使されている。琉球大学附属図書館では、これまで戦後資料収集委員会を設置して、精力的に関係資料を集めてきている。その成果が、目録となって刊行されている。

しかし、アメリカ関係資料が紹介されているにもかかわらず、また、多くの研究者たちが沖縄にいるにもかかわらず、これらの資料を、論文の注で、しかもそのタイトルだけしか見れないことが、たびたびある。他の資料が十二分に整理されているかといえば、今の私には答えるだけの材料を持たない。私の調査不足もさることながら、資料と直かに対面できないのもどかしさを強く感じていた。そこで、見たい資料を所蔵しているか、という視点から、どんな資料を所蔵しているかという視点に転換し、まず手始めに、私が勤める琉球大学附属図書館を調べてみた。そこで、ワトキンズ・コレクションがあることを知った。

同図書館にあるワトキンズ・コレクションは、35mmフィルムのハーフサイズで6リールである。簡単な目録が、フィルムケースに貼られているだけ。最初に紹介した『沖縄関係資料目録、増加版』にも、内容が記載されているが、わかりにくい。

実際に手に取って、マイクロリーダーで見る。文字がかすんで判読しがたい部分に出会ったときの苛立たしさがある。この気持ちをどう表現したら伝わるのかわからないが、マイクロフィルムの形で資料と接したことのある人であれば、理解してもらえと思う。

英文の文書の多くは、タイプライターで書かれている。メモなどが手書きとなっているのをのぞけば、多くは判読しやすい傾向にあるといえる。だが、実際は、タイプの活字、紙の質、コピーのためのカーボンの状態、マイクロフィルムでの撮影した際のサイズ、などに影響を受けやすい。ワトキンス・コレクションには、眼に負担をかけてしまう部分が多かった。また、目録が整理されていないことも、私のストレスを高めた。

法文学部で沖縄の戦後に関心を持つ同僚たちに相談したところ、フィルムの焼き付けをし、製本すれば、この資料の利用度ははるかに高まるだろうとなった。本来なら、図書館がやるべきことだと私は思うのだが、すでにある資料の焼き付けは、予算がなくてできないとの図書館からの返事だった。そこで、法文学部の全面的協力をいただき、図書館に焼き付け、製本の形でワトキンス・コレクションが入ることになった。

もう一つの契機は、今年の夏、U.S.I.A.の招きで東海岸から西海岸、そしてアラスカまでアメリカを旅行した際に、二つの偶然でフーバー研究所を訪問したことである。日米関係を教えている研究者と会う約束でスタンフォード大学を訪れた。その日の午前中のアポイントメントが早く終了したので、スタンフォード大学に予定の時間より早く着いた。大学のカフェテリアで昼食をとりながら、約束の時間までのしばらくの間をどう過ごそうか考えていた。そのときに思い浮かんだのが、フーバー研究所にオリジナルのワトキンス・コレクションが所蔵されていることであった。学外者で、しかも誰の紹介状持たない私なので、見せてもらえるか不安であったが、とりあえず試してみようと思った。

結果としてのもう一つの偶然は、9月の中旬なのでアメリカの大学では新学期に入っていると、勝手に想像していたのがもとで、約束の先生は居らず、テクノロジー・トランスファー（技術移転）の専門家に会うことになった。スタンフォード大学の新学期の始まりはアメリカでは遅い方で、私が訪ねた日には、まだ授業は始まっていなかった。そのテ

クノロジートランスファーの専門家に会っても余り成果が期待できないと判断して、その面会を断って、フーバー研究所へ向かった。

赤い屋根のスペイン風の建物が美しいスタンフォード大学キャンパスで、ひときわ目立つフーバータワーがある。フーバー研究所は、そのタワーと連なる二つのビルディング群にある。

文書保存の際に、使用される箱にホリンジャー・ボックス (Hollingerbox) がある。ワシントンD.C.にある米国国立公文書館、陸軍省戦史センターでも使用されていたので、一般的な文書保管用のボックスだろうと思う。サイズは、リーガルサイズがおさまるフォルダー（日本でのA4サイズより少々長い）が十二分に入り、ふたが付き、奥行き約15cmで、材質は厚手の紙である。

フーバー研究所文書室にあるカード形式カタログには、ワトキンスは次のように紹介されている。

Watkins, James Thomas, IV, 1907-
Papers, 1927-1970.

25ms. boxes, 1 oversizebox, 2
envelopes, 1 microfilm reel, 1
phonorecord, 1 framed painting.

American political scientist;
lieutenant commander, U.S. Navy;
political affairs officer, U.S.

Military Government, Okinawa, 1945-
1946.

Summary: Writings, reports,
memoranda, orders, correspondence,
printed matter, and photographs,
relating to American military administration
of Okinawa immediately
after World War II. Entire collection
(Cont'd on next card)

also on microfilm (36 reels).

INDEXES:

preliminary inventory

「Who's Who in America, 1968-69」の中で、

ワトキンズの略歴が紹介されている。

教育者、1907年11月8日、サンフランシスコにて生まれる。父・James T. Watkins 母・Eleanor (Fairman) Preston。学士、スタンフォード大学 (1929年)。修士、スタンフォード大学 (1934年)。博士、スタンフォード大学 (1941年)。1938年9月18日、Elise Valerie Gettierと結婚。1929年から1931年まで東海中等学校 (名古屋) で講師。1931年から1933年までCentral China College (中国) にて講師。1933年から1935年までスタンフォード大学政治学科のティーチングアシスタント。1938年から1941年までシカゴ大学講師、1941年から1943年までオハイオ大学助教授、1946年から1949年まで助教授、1945年から1946年まで沖縄にて軍政府政治担当将校 (political affairs officer)。1949年から1953年まで準教授、1953年から教授。軍歴、海軍中尉から海軍少佐：1943年から1946年まで郵便係将校 (Postal officer)、1946年から1949年まで海軍政府政治担当将校。著書には、Shinchiku Province, Taiwan, 1944, A Settlement with Japan, 1950, General International Organization (with J. William Robinson), 1950, Control of Foreign Relations in Modern Nations (with P.W.Buck and others) などがある。

オリジナルのワトキンズ・コレクションは、全部で26箱ある。その目録は以下の通り。右上に、同研究所のカタログの一部に手書きで記載されていたマイクロフィルムのリール番号を入れておく。

Box 1 Bibliography (Reels 1-6)
 Ryukyus indoctrination
 History of Okinawa
 Battle of Okinawa
 POW's and MP's
 Okinawa picture list
 Flack Balley graves photobraphs
 Museums, Colonel's House - photographs
 Okinawans and others - photographs

Evacuation, resettlement, home Life, orphanages, and rationing - photographs

Government - photographs

Landscape, typhoon and destruction - photographs

Post office and special - photographs

Box 2 Architecture

Agriculture, industry, and labor - photographs

Education, the arts - photographs

Enlargements of photographs

Aerial photographs

Illustrations from magazines

Maps

Clippings of early occupation of Okinawa, 1945-1946

Issues of Kosei Okinawa, 1947-1948

Clippings on Okinawa, 1947-1948

Clippings on Okinawa, 1951-1959

Clippings on Okinawa, 1960-1968

Box 3 Clippings on Okinawa, 1949-1951

U.S. Military Government, Okinawa, monthly reports, April - August 1945

U.S. Military Government, Okinawa, monthly reports, September 1945 - February 1946

U.S. Military Government, Okinawa, monthly reports, March - May 1946, and final report, April 1945 - July 1946

U.S. Military Government, Okinawa, team history reports, 1945

U.S. Military Government, Okinawa - special documents, 1946

Okinawa - miscellaneous printed matter, student papers, and letters

Symposium - apt quotations

Research declassification

U.S. Military Government, Okinawa - post office and censorship

- Box 4 Indexes
- Chronology of U.S. Military Government, Okinawa
 - Pre-occupation training of military government officers
 - U.S. Military Government, Okinawa, documents, 1945-1946
 - Morgan memoir on occupation of Okinawa
 - U.S. Military government, Okinawa, minutes of meetings, 1945-1946
 - U.S. Military Government, Okinawa - planning phase
 - U.S. 10th Army military government planning history
 - Military government operational plan annex
- Box 5 Military government theory, mission and authority
- Military government general organization
 - Military government headquarter organization
 - Military government field organization
 - Military government for Ryukyus other than Okinawa
 - Military government organization, Iji bivouac area
 - U.S. Army assumption of military government, July 1946
 - Military government personnel staff assignment and station lists, 1945-1946
 - Military government personnel detachment rosters and draft rosters
- Box 6 Military government enlisted personnel - guard lists and plans of the day
- Military government personnel demobilization or reassignment from Okinawa
 - Military government personnel -
- miscellany
 - Military government personnel - General William Crist
 - Military government personnel - Colonel Charles Murray
 - Military government personnel - morale
 - Military government personnel - fraternization, circulation and violence
 - Okinawa - arts, monuments and religion
 - Okinawa - education
 - Military government orders and directives, 1945-1946
 - Hanna memoir on military government planning stage
 - Okinawa - land and population
 - Okinawa - attitudes and psychology of population
 - Hanna/Watkins manuscript on land and people of Okinawa
- Box 7 Lawrence/Watkins manuscript on supply
- Military government documents on supply
 - Supply - miscellany
 - Political rehabilitation - general and miscellany
 - Okinawa - government - pre-war
 - Okinawa - Provisional Advisory Assembly, 1946
 - Okinawa Advisory Council - notes on meetings with U.S. Military Government political Affairs Officer
 - Okinawa Advisory Council
 - Government up to rejection of Murdock Plan
 - Implementation of Caldwell Program
 - Implementation of Caldwell / Mura Program
 - Implementation of Caldwell Program - civilian departments

- Implementation of Caldwell Program
- appointment of Chiji
(Governor)
- Notes of Meeting with Chiji and
Cabinet
- Implementation of Caldwell Program
- Prefectural Assembly
- Implementation of Caldwell Program
- consolidation of military
government control
- Operation of Shijeka Administration
Okinawa judiciary
- Government notes for Watkins
manuscript
- Box 8 Watkins manuscript on Okinawa
government - first draft
- Okinawa - economic rehabilitation
- Okinawa - euacuation, resettlement
and housing
- Repatriation of Okinawans in
Taiwan
- Okinawa - agriculture and fisheries
- Okinawa - industry
- Okinawa - monetary economy
- Box 9 Okinawa - labor
- Okinawa - property
- Lawrence / Watkins manuscript on
economic rehabilitation
- Lawrence / Watkins manuscript on
public health
- Watkins revision of Lawrence thesis
on public health
- Okinawa - public health relief
- Lawrence / Watkins manuscript on
disaster relief
- Lawrence / Watkins manuscript on
money economy
- Hanna / Watkins manuscript on
social rehabilitation
- Box10 Okinawa - reversionism, 1953
- Hanna manuscript on the future of
Okinawa
- Hanna manuscript on appraisal and
prospects of Okinawa
- Lessons from experience - notes and
correspondence
- Okinawa - American relief
(post-occupation)
- Okinawa - future status
- (Reels 7)
- Correspondence with military
government enlisted personnel,
1948-1959
- Lawrence, William Henry, Jr.,
"Military government in
Okinawa : Disaster Relief
administration, the Economy
and Its
Rehabilitation, and Supply,"
M.A. thesis, Columbia
University, 1947
- Box11 Mescellneous mimeographed reports,
photographs and printed matter,
relating to Okinawa, 1947-1969
- (Reels 8)
- Box12 U.S. Navy Civil Affairs Handbook
for Ryukyus, 1944
- Miscellaneous military government
directives
- Watkins manuscript on political
rehabilitation
- Nakasone, Genwa, "From Okinawa
to Ryukyu" (in Japanese)
- Box13 Military government roster
- CinCPac - CinCPOA report on
Okinawa, 1944
- Military government report for
Ryukyus, 1946 and 1948
- Photograph negatives
- (Reels 9)
- Box14 War diary indexes
- Daily Okinawan Press Summary
issues, 1954
- (Reels 10)

Box15 Daily Okinawan Press Summary
issues, 1951-1953

(Reels 11)

Box16 Daily Okinawan Press Summary
issues, 1952-1954

(Reels 12)

Box17 Daily Okinawan Press Summary
issues, 1952-1953
Chit book of Charles W. Ure,
businessman in Shanghai, 1917
Maps, printed matter and
miscellany, relating to Japan
and world politics, 1948-1978

(Reels 13)

Box18 Reports of U.S. Foreign Service oral
examinations of Stanford Uni-
versity students, 1933-1963
Correspondence, student papers,
printed matter and U.S. and
world politics, 1906-1972
Press releases and printed matter,
relating to the attitudes of
various member nations of the
United Nations toward the
Korean War, 1950-1951

(Reels 14)

Box19 Watkins Family genealogy on 4 × 6
cards
Pamphlets and articles about
Okinawa
Administration of Occupied Areas,
A Study guide by Philip H.
Taylor and Ralph J. D.
Braibanti, Syracuse University
Press, 1948, pamphlet
Watkins manuscript and notes on
early occupation period

(Reels 15)

Box 20 Watkins notes, war diary

Okinawa public relations pamphlets
Ryukyu Islands, A Bibliography.
Department of the Army
Pamphlet, 1967

(Reels 16)

Box 21 War diary notes
Lawrence / Watkins manuscript on
rehabilitation, political and
social
Lawrence / Watkins manuscript on
supply
Lawrence / Watkins manuscript on
public health
Lawrence / Watkins manuscript on
Okinawa : The land and the
people
Lawrence / Watkins manuscript on
disaster relief administration
Lawrence / Watkins manuscript on
the planning period

Box 22 War diary
Correspondence, Okinawa project
Hanna manuscript
Watkins letters to his wife
Trips
Ryukyu Project expenses
Lawrence / Watkins manuscript on
monetary economy

(Reels 17)

Box 23 Watkins Okinawa papers catalogue
War diary table of contents
War diary index
War diary pages 116-227
Watkins desk calendar entries,
October 20, 1945 - July 18,
1946
Lt. Commander Paul H. Skuse's
letters to his wife from
Okinawa
Watkins-Skuse correspondence
Correspondence with Okinawan
leaders, 1947-

- Correspondence
Letters of recommendation (U.S. Navy)
Correspondence with Francis W. Schruben
Ryukyu study proposal, summer 1953
Writing : Okinawan oddments
Military government chronology (Okinawa)
Lawrence / Watkins manuscript on rehabilitation
- Box 24 Correspondence, general, about Okinawa
Personnel : Military government alumni
Navy School of Military Government (class notes)

(Reels 18)
Watkins letters from Okinawa to wife and family
Correspondence with Mr. Iwao Yoshihama
- Box 25 Reversion
Correspondence with Sanford Zalburg and Arnold Fisch
Maps and miscellaneous
- Box 26 Administrative Subdivisions of Japan, 1946-1947. Atlas
Two maps of Okinawa
Printed matter on the occupation of Japan, and the League of Nations
- 現在、琉球大学附属図書館にあるワトキンス・コレクションは、次の通りである。マイクロ・フィルムだけでなく、それが引き伸ばし・製本されて、合計45冊（A4サイズ）が入っている。同資料名は「OKINAWAN PAPERS deposited by Professor James T. Watkins」である。（ ）内数字は冊数番号。
- CONTENTS OF CATALG (1)
- I -1. Okinawa-History (2)
- I -2. Okinawa-Ryukyus Indoctrination (2)
- II -1. Battle of Okinawa (3)
- III -1. Flack Valley Graves (4)
- III -2. Museums, Colonel's House (4)
- III -3. Okinawans (and other) (4)
- III -4. Evacuation, Resettlement Home Life Orphanages, and Rationing (4)
- III -5. Civilian (native) Government (4)
- III -6. Landscape, Typhoon Destruction (4)
- III -7. Architecture (4)
- III -8. Agriculture, Industry, Labor (4)
- III -9. Education, The Arts (4)
- III -10. Enlargements (4)
- III -11. Okinawa Photographs (air) (4)
- III -12. Illustrations (4)
- IV -1. MG : Adm. Operations-Maps (5)
- V -1. Early Occupations : 1946 Newspaper Clippings (5)
- V -2. Clippings 1947/1948 (5)
- V -3. Okinawa, Kosei Okinawa (5)
- V -4. Clippings 1949, 50, 51 (6)
- V -5. Clippings 1951-1953 (6)
- V -6. Clippings 1960- (6)
- VI -1. MG : Okinawa, Monthly Reports (7)
- VI -2. MG : Okinawa, Monthly Reports (II) (8)
- VI -3. MG Final Report (and June 1946) (9)
- VI -4. Administration MG, Team Histories (10)
- 2- I -1. Bibliography (11)
- 2- I -2. Indexes (11)
- 2- I -3. Chronology (12)
- 2- I -4. Documents (13)
- 2- I -5. Pre-Occupation : Training of MG Officers (14)
- 2- II -1. War Diary (M.S.) (14)
- 2- III -1. MG Headquarters : Morgan M.S. (14)
- 2- IV -1. MG : Okinawa, Staff Meetings (15)
- 2- IV -1. MG, Okinawa: Planning Phase (16)
- 2- IV -2. Planning : Tenth Army History (17)
- 2- VII -1. no title (17)
- 2- VII -2. MG theory, Mission, Authority (18)
- 2- VIII -1. Organization, General (19)

- 2-VIII-2. MG. Admin. Organization : Hdq.(19)
 2-VIII-3. MG Organization : Field (20)
 2-VIII-4. Ryukyus : Extra-Okinawa Affairs (20)
 2-VIII-5. MG Organization : Iji Bivowac Area (21)
 2-VIII-6. Army Takes Over 1 July 1946 (21)
 2-IX-1. Personnel : MG Detachment Rosters, Draft Rosters (22)
 2-IX-2. MG Personnel Staff Assignment and Station List, 1 Nov. 1945-1 June 1946 (23)
 2-IX-3. MG Personnel: EM: Guaod List and Plan of the Day (23)
 2-IX-4. Personnel : Demobilization or Reassignment from Okinawa (24)
 2-IX-5. Personnel : Misc. (24)
 2-IX-6. MG Personnel : The General (24)
 2-IX-7. The Colonel (24)
 2-IX-8. MG : Adm. Morale (24)
 2-IX-9. MG : Adm. fraternization, Circulation, Violence (25)
 2-X-1. MG : Okinawa, Arts, monuments, Religion (25)
 2-X-2. Education (25)
 3-I-1. MG Planning Stages; Hanna (26)
 3-I-2. MG Planning Stages; Hanna (26)
 3-I-3. MG Planning Stages; Hanna (26)
 3-II-1 Land and Population (26)
 3-II-2 Attitude of Population (26)
 3-III-1.2.3. Land and People : Hanna/Watkins (27)
 3-IV-1. Supply: Lawrence/Watkins (27)
 3-IV-2. Supply (27)
 3-IV-3. Supply: Lawrence/Watkins (27)
 3-IV-4. Supply Misc. (27)
 3-V-1. Govt: political Rehabilitation, General to Misc. (28)
 3-V-2. Govt. 1 Pre-war (28)
 3-V-3. Govt. through Prov. Adv. Assembly 15 Aug. 1946 (28)
 3-V-4. Govt. Advisory Council Notes on Meeting with Political Affairs Officers, MG, 8 Mar.-26 April (earlier note lost) (28)
 3-V-5. Govt. Advisory Council 21 aug. (28)
 3-V-6. Govt. to Rejection of Murdock plan (Oct. to -) (29)
 3-V-7. Govt: Implementation of Caldwell Program, General (29)
 3-V-8. Govt: Implementation of Caldwell Program, Mura Program (29)
 3-V-9. Govt: Implementation of Caldwell Program, Civilian Depts. (29)
 3-V-10. Govt: Implementation of Caldwell Program, Appointment of Chiji (governor) to 25 April 1946 (29)
 3-V-11. Govt: Operation Notes of Meetings of MG Political Officer with Chiji and Cabinet, 3 May - 28 Jun (end) (30)
 3-V-12. Govt: Implementation of Caldwell Program - Okinawa Assembly (30)
 3-V-13. Govt: Implementation of Caldwell Program, Consolidation of MG Control (30)
 3-V-14. Govt: Operation of Shikeja Adm. (relations with MG and other Ryukyus) (30)
 3-V-15. Govt: Judiciary (30)
 3-V-16. Govt: Notes for Watkins ms (31)
 3-V-17,18. Govt: Watkins (ms), 1st Draft (32)
 3-V-19,20,21,22. Govt: Watkins (I) (33)
 3-V-23,24,25,26. Govt: Watkins (II) (33)
 3-VI-1. Economic Rehabilitation, General (34)
 3-VI-2. MG Evacuation, Resettlement Housing (34)
 3-VI-3. Repatriation, Okinawans in Taiwan (35)
 3-VI-4. Economics: Agriculture, Fisheries (35)
 3-VI-5. Economics: Industry (35)
 3-VI-6. Monetary Economy (35)
 3-VI-7. Labor (36)
 3-VI-8. Property (36)
 3-VI-9. Economics: Lawrence/Watkins (first draft) (37)

- 3- VI -10,11. Economics: Lawrence/ Watkins (37)
- 3- VII -1. Public Health: Lawrence/Watkins (38)
- 3- VII -3. Public Health: Watkins revision of Lawrence thesis, 1st draft (38)
- 3- VII -1. Public Health Relief (39)
- 3- VII -2,3,4. Disaster Relief: Watkins/Lawrence (39)
- 3- IX -1,2,3. Monetary Economy: Lawrence/Watkins (40)
- 3- X -1,2,3. Social Rehabilitation: Hanna/Watkins (41)
- 3- X 1-1. After June 1946: Reversionism 1953 correspondence (42)
- 3- X II -1. Future: Hanna ms (43)
- 3- X III -1. Misc: Appraisal (44)
- 3- X III -2. Lessons from Experience (44)
- 3- X III -3. American Relief (45)
- 3- X III -4. Future Status (45)

フーバー研究所のオリジナル資料の目録と琉球大学にあるマイクロフィルム資料の共通する点、相違する点は、どこにあるのか。第一に、マイクロフィルムに撮影された部分は、Box 1からBox10の一部までだろうと、「推定」できる。実際に、フーバー研究所のワトキンス・コレクションの目録に、手書きでマイクロフィルムのリール番号がつけられている。なぜ、「推定」かと言えば、両者のフォルダー・タイトルを見比べてみて、同一ではないからである。多分、同じものだろうと、思われるフォルダー・タイトルもあれば、それぞれに対応しないと思われるものがある。

ほとんどのフォルダーは対応すると思われるので、ここでは、数の少ない対応しないと思われるものを記しておこう。

まず、フーバー研究所のオリジナル資料にあって、マイクロフィルムにないと思われるもの。

Box 3

- U.S. Military Government, Okinawa - Special documents, 1946
- Okinawa - miscellaneous printed matter, student papers, and letters

- Symposium - apt quotations
- Research declassification
- U.S. Military Government, Okinawa post office and censorship

Box 4

- military government operational plan annex

Box 5

- U.S. Army assumption of military government, July 1946

次に、マイクロフィルムにあって、オリジナルにないと思われるもの。

- 2- II -1. War Diary (M.S.)

- 2- VII -1. no title

- 2- VIII -6. Army Takes Over 1 July 1946

- 3- V -19,20,21,22. Govt:Watkins (I)

- 3- V -23,24,25,26. Govt:Watkins (II)

第二に、マイクロフィルムに撮影されていない部分が、Box10の途中から最後のボックスBox26までと「推定」できる。もしそうだとすれば、ワトキンス・コレクションのオリジナルと同様に収集するためには、これら残りの部分を撮影すればよいと言えよう。しかし、オリジナルにあってマイクロフィルムのないもの、あるいはマイクロフィルムにあってオリジナルにないものを、オリジナルのカタログ全体 (Box 1 からBox26) の中で検討すると、それほど単純ではないことがわかる。

例えば、マイクロフィルムに撮影されている「2- II -1. War Diary (M.S.)」フォルダーは、オリジナルのBox20の「Watkins notes, war diary」と同一のものと考えられる。私がフーバー研究所でみた中で、ナンバー (例えば、3-V-21や2-VII-1など) がふられているフォルダーが、Box10以降のボックスに入っている。私がオリジナル資料にて確認したフォルダーだけを挙げておこう。下記以外にもあるかもしれない。

Box12

- Miscellaneous military government directives 3- V -12
- Watkins manuscript on political

rehabilitation 3-V-25
 Box13
 CinCPac-CinCPOA report on Okinawa,
 1944 2-VII-1
 Box 21
 Lawrence/Watkins manuscript on
 rehabilitation, political and social
 3-V-19, 3-V-24

以上、オリジナルとマイクロフィルムの関係を述べてきた。

そこで、なぜワトキンズ・コレクションの一部に限ってマイクロフィルム撮影をしたのか、という疑問が生まれてくる。琉球大学図書館へ入る契機となった比嘉幹郎氏の選択の結果であったのか。ご本人に確認を取っていないが、この疑問に答えると思われる材料がある。

まず、ワトキンズ・コレクションは、当初からフーバー研究所に所蔵されていたわけではない。

1969年7月15日、スタンフォード大学ファカルティークラブで開かれたカクテルパーティで、当時のフーバー研究所司書であったJohn Ma氏は、ワトキンズ氏と会った際に、同氏がまとまった戦後沖縄関係資料をもっていることを聞いた。そして翌日、ワトキンズ氏に対して同資料のフーバー研究所東アジアコレクションへの寄贈依頼をしている。現在の私には、いつフーバー研究所に移されたのか知らないが、それからまもなくであったろうと思う。

1972年10月18日付けの米国国立公文書館(National Archives and Records Service)連邦政府記録センター所長 Harold F. Elliot氏からフーバー研究所東アジアコレクションのJohn T. M 氏宛の手紙の写しが、私の手元にある。その手紙の内容は、公文書館が借りだしていたワトキンズ・コレクションを返却すること、そして同資料を撮影した3セットのマイクロフィルムを送付したこと、の二点であった。加えて、そのマイクロフィルムの内容が記されている。

Reel(1) Table of Contents

Catalog

- I -1 Okinawa History thru V-6
 Clipping 1960
 Reel(2) VI -1 MG: Okinawa Monthly Reports thru 2- I -4 Documents.
 Reel(3) 2- I -5 Pre-occupation: Training of M.G. thru 2- VIII MG Organization, Field.
 Reel(4) 2- VIII -4 Ryukyus: Extra-Okinawa Affairs thru 3- II -2 Attitude of Population.
 Reel(5) 3- III -1, 2, 3 Land and People; Hanna/Watkins thru 3- V -23,24,25,26 Government; Watkins (II).
 Reel(6) 3- VI -1 Economic Rehabilitation, General thru 3- X III -4 Future Status, Table of Contents.

このカタログと琉球大学附属図書館にあるマイクロフィルムのカタログとほとんど同一である。おそらく、琉球大学のワトキンズ・コレクションのマイクロフィルムは、この時に撮影されたマイクロフィルムの複製だ、と思われる。そうだとすれば、どのフォルダーを選択して、撮影するかを決めたのは、米国国立公文書館となる。その判断が、戦後史を研究する人々にとっても、同じであるのかは、一概には言えないだろう。そのワトキンズ・コレクションが語る対象が、沖縄のこと、沖縄の人々であるなら、なおさらであろう。

いずれにせよ、同コレクションが、法文学部の協力で、誰もが、眼に負担をかけずに閲覧できるようになったことは、喜ばしい。さらに、残りのコレクションの収集については、今後こそ図書館に期待したい。幸いに、フーバー研究所から、撮影されている同コレクションの残りについて、マイクロフィルムの複製の用意があることを知らせる手紙が、私の手元に届いている。その写しを、訳をつけて図書館にも提出した。是非とも、実現して欲しいと思う。

(ガベ まさあき；法文学部助教授)

医学部分館学術雑誌利用頻度統計について

城田 由二

世界で年間2百万件以上の医学文献が発表されるといわれる今日、一大学図書館でその全てを収集することは不可能である。しかし、本来図書館は、利用者の要求する情報を即座に提供できるのが理想であり、そのための蔵書構成が成されるべきである。特に医学図書館においては、資料の大部分を占める雑誌の収集・選択が重要なポイントとなる。

そこで、医学部分館では毎年雑誌利用頻度調査を行ってきたが、今回1990年9月～1991年8月の調査が完了したので報告したい。

調査の結果、1回以上貸し出された雑誌は559誌（和雑誌388誌、洋雑誌221誌）あり、所蔵雑誌の約3分の1（和雑誌34%、洋雑誌30%）に及んだ。

教職員・学生（学生・院生）別利用頻度比率は5.4対4.6（図1）、和洋別雑誌利用頻度は1対1（図2）で、教職員・学生あるいは和雑誌・洋雑誌に偏ることなくバランスのとれた利用が成されている。

学生においては、和洋別の利用頻度（図3）の割合は約3対1で圧倒的に和雑誌の利用頻度が高く、年次が進むにつれ洋雑誌の利用頻度が高くなる傾向を示した。

一方、教職員の場合はほぼ逆の結果（図4）となった。教職員が、国際的な研究動向に強い関心を注いでいることがうかがえる。

学生は、医師国家試験という難関を控えているので、その対策誌である「医師国試対策（KOKUTAI）」の利用頻度が極めて高いのが特徴的（表3）である。また、学生は臨床経験が乏しいので、臨床の参考になる雑誌の利用頻度も高い。教職員は、利用雑誌に占める専門分野の雑誌の割合が高いのが特徴的である。

雑誌利用頻度上位の雑誌構成は前年とはほぼ同じで、自然科学・医学分野の総合雑誌・速報性のある雑誌の利用頻度が高いという結果（表1、2）が得られた。

（しろた ゆうじ 分館閲覧係）

（注） 調査対象は、1990年9月～1991年8月の雑誌貸し出し回数と館内での雑誌複写回数である。

誌名のもとに複数のセクションのある場合は、セクションを省き誌名のもとに統計をとった。

Supplement は、本誌名に統一し統計をとった。

学術雑誌の利用頻度教職員・学生（学生・院生）比較
1990年9月～1991年8月における学術雑誌利用頻度統計

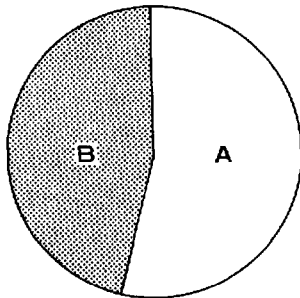


図1

単位：回数		
ラベル数	値	比率
A 教職員利用回数	7240	54.4%
B 学生・院生利用回数	6060	45.6%

学術雑誌利用頻度和洋別統計
1990年9月～1991年8月における学術雑誌和洋別利用頻度統計

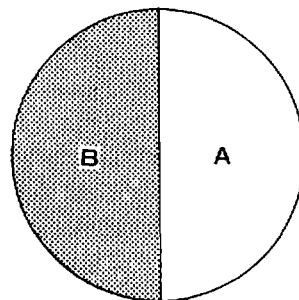


図2

単位：回数		
ラベル数	値	比率
A 和雑誌利用回数	6710	50.5%
B 洋雑誌利用回数	6590	49.5%

学生（学生・院生）の学術雑誌利用頻度和洋別統計
1990年9月～1991年8月における学生の学術雑誌和洋別
利用頻度統計

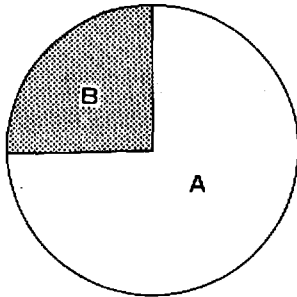


図 3

ラベル数	値	比率
A 和雑誌利用回数	4575	75.5%
B 洋雑誌利用回数	1485	24.5%

教職員の学術雑誌利用頻度和洋別統計
1990年9月～1991年8月における教職員の学術雑誌和洋
別利用頻度統計

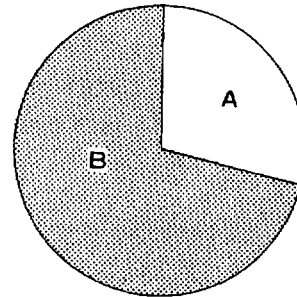


図 4

ラベル数	値	比率
A 和雑誌利用回数	2135	29.5%
B 洋雑誌利用回数	5105	70.5%

雑誌の複写貸出頻度上位雑誌リスト

表 1 —和雑誌—
(1990年9月～1991年8月)

順位	雑誌名	回数
1	日本臨床	226
2	医学のあゆみ	225
3	Medicina (メデチーナ)	172
4	Medical Practice	171
5	実験医学	162
6	医師国試対策 (KOKUTAI)	153
7	肝・胆・膵	142
8	Medical Technology	138
9	Mebio(メビオ)	132
10	癌の臨床	116
11	癌と化学療法 代謝	113
13	内科	109
14	厚生の指標	99
15	外科治療	95
16	公衆衛生	89
17	病理と臨床	88

表 2 —洋雑誌—
(1990年9月～1991年8月)

順位	雑誌名	回数
1	Cancer	214
2	Nature	205
3	Lancet	159
4	New England Journal of Medicine	151
5	Proceedings of the National Academy of Sciences of the USA	148
6	Journal of Biological Chemistry	139
7	Science	138
8	Blood	119
9	Cell	107
10	American Journal of Physiology	96
11	Biochimica et Biophysica Acta (BBA)	94
12	Cancer Research	90
13	American Journal of Medicine	88
14	Radiology	74
15	Journal of Immunology	72
16	Annals of Internal Medicine	68

18 臨床免疫	87
19 皮膚科の臨床	80

17 Infection and Immunity	67
18 Brain Research	63
19 Diabetes	60

表3 ——和雑誌(学生・院生)——
(1990年9月～1991年8月)

順位	雑誌名	回数
1	日本臨床	171
2	医師国試対策 (KOKUTAI)	153
3	医学のあゆみ	148
4	Medical Practice	138
5	Medical Technology	135
6	Medicina (メデチーナ)	134
7	Mebio(メビオ)	125
8	実験医学	108
9	肝・胆・膵	94
10	代謝	80
11	癌の臨床	76
	外科治療	76
13	癌と化学療法	74
14	病理と臨床	72
15	内科	71
16	現代医療	65
17	皮膚科の臨床	64
18	脳神経外科(Neurological Surgery)	63
19	画像診断	60

表4 ——洋雑誌(学生・院生)——
(1990年9月～1991年8月)

順位	雑誌名	回数
1	New England Journal of Medicine	62
2	Nature	49
3	American Journal of Physiology	43
4	Blood	34
5	Journal of Biological Chemistry	33
6	Science	32
	Cancer Research	32
8	Biochimica et Biophysica Acta(BBA)	31
9	American Journal of Medicine	30
10	Methods in Enzymology	28
11	Journal of Immunology	27
	Lancet	27
13	Immunology	26
14	Annals of Internal Medicine	23
15	Cancer	22
16	Infection and Immunity	20
	Journal of National Cancer Institute	20
18	Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism	17
	British Medical Journal	17

表5 ——和雑誌(教職員)——
(1990年9月～1991年8月)

順位	雑誌名	回数
1	医学のあゆみ	77
2	日本臨床	55
3	実験医学	54
4	肝・胆・膵	48
	医学中央雑誌	48
6	厚生指標	43
7	蛋白質・核酸・酵素	42
8	癌の臨床	40
9	癌と化学療法	39

表6 ——洋雑誌(教職員)——
(1990年9月～1991年8月)

順位	雑誌名	回数
1	Cancer	192
2	Nature	156
3	Lancet	132
	Proceeding of the National Academy of Sciences of the USA	132
5	Journal of Biological Chemistry	106
	Science	106
7	Cell	90
8	New England Journal of Medicine	89

10	Medicina (メデチーナ)	38	9	Blood	85
11	内科	38	10	Radiology	66
	臨床放射線	36	11	Biochimica et Biophysica Acta (BBA)	63
13	臨床免疫	34	12	American Journal of Medicine	58
	臨床精神医学	34		Brain Research	58
15	Medical Practice	33		Cancer Research	58
	代謝	33	15	Obstetrics and Gynecology	53
	小児科診療	33		American Journal of Physiology	53
	厚生省 研究報告	33	17	Diabetes	52
	呼吸と循環	33		Nucleic Acids Research	52
			19	Molecular and Cellular Biology	48



<お知らせ>

長期貸出の開始と開館時間について

*長期貸出

12月16日(月)～12月27日(金) (返却期限 平成4年1月16日(木))

*開館時間及び休館

12月25日(水)～12月27日(金) 8:30 ～17:00

12月28日(土)～1月4日(土) 年末年始のため休館

1月6日(月)より夜間開館開始

月～金 8:30 ～21:00

土 8:30 ～17:00

Le Tour du Monde (『世界一周旅行』) シリーズと M.-J. Revertegat
(ルヴェルトガ) : “Une Visite aux îles Lou-Tchou” (『琉球諸島紀行』) [3]

森田 孟 進

19世紀後半、フランスのいくつかの絵入り大衆雑誌の創刊者にして、すぐれた編集者であったエドゥワール・シャルトンは1807年5月11日、シャンパーニュ地方のサンス(Sens)に生まれた。父は自作農であった。シャルトンはパリ大学で法学を修め、1828年、弁護士となる。が、法曹界には入らず、ジャーナリズムの世界へ入り、雑誌『キリスト教道徳協会ジャーナル』(*Journal de la Société de morale chrétienne*) および『初等教育会報』(*Bulletin pour l'instruction élémentaire*) の編集長となる。この頃、シャルトンはサン＝シモン主義者となり、サン＝シモン主義思想の布教者としてブルターニュ地方へ送られたこともあったというが、結局サン＝シモン主義から離れ、1833年1月、25歳で、『ル・マガザン・ピトレスク』(*Le Magasin pittoresque*) (『絵入り雑誌』) を創刊する。この雑誌は大いに売れ、彼は56年間、すなわちこの世を去るまで、この雑誌の編集長であった。

「『ル・マガザン・ピトレスク』はいわば乱雑な百科事典だね」とシャルトンは自らよく口にしていたが、追憶文を書いたポール・ラフィットによれば、これは“謙遜”であって、『ル・マガザン・ピトレスク』はなかなか体系的に編集されている。シャルトンはフランスにおける絵入り大衆雑誌の創始者であり、『ル・マガザン・ピトレスク』は「いく世代にもわたって人々を魅了し、楽しませ、教育し、勇気づけてきた」雑誌であった、とラフィットはいう。さらに、同誌はすぐれてフランスの芸術である木版画の進歩に大いに貢献し、デッサン画家と版画家の『ル・マガ

ザン・ピトレスク』派と呼ぶべき一派を生み出した、という。ラフィットは、同誌の寄稿家たちの中に、ジョフロワ・サン＝ティレール(Geoffroy Saint-Hilaire) やジャン・レイノオ(Jean Reynaud) のような博識で秀れた学者たちがいたことを強調している(同誌は1833年1月から1888年12月まで、全56巻、年刊12冊＝1巻で56年間?)。かくして、ジャーナリストとしての才能を買われたシャルトンは、1860年、有力出版社アシュット社の『ル・ツール・デュ・モンド』の編集を任せられる(同誌がどのような雑誌であったかについてはすでに述べた)。

シャルトンの著書としては、『今昔の旅行家たち』(*Voyageurs anciens et modernes*, 4 volumes, 1854-1857) が特に知られ、長い間、版を重ねたという。他にボルディエ(M. Bordier) との共著『フランス史』(*Histoire de France*, 1859-1860, 絵入り本) などがある。

1848年、カルノ(Carnot) が文部大臣となった時、シャルトンはカルノの事務局長となり、政界とのつながりができる。同年4月、憲法制定議会へヨンヌ県の代表として選出され、1870年にはセネワーズ県の知事となる。翌年にはヨンヌ県選出の国民議会議員、1876年には元老院議員となり、政治家としても活躍した。

1890年2月27日、ヴェルサイユの自宅で歿す。その日シャルトンはベッド近くにあったテーブルで校正刷りを見ていたが、彼の手からペンが落ちた時、彼は死んでいた。

ラフィットはシャルトンを評して、“徳の高い人”であったと、言っている。わけても、

シャルトンは「知識の普及者」であった。シャルトンはある本や人物についての批判というものが嫌いであったので、よくこう言った——「欠点を私に話して下さっても何の役にもたちません。その良い所を私に話してください」と。また、若い人に向っては、「働き、生み出せ!」「愛し、感嘆せよ!」と教えたという。同時代の文学作品、すなわち、人間の獣性・暗黒面を描いた自然主義の作品についての感想は次のようなものであった——「あなたがたは不品行で、性悪な人物たちを描いてみせますが、私は実生活ではそんな人物たちと知り合いになりたいとは思いませんね」。ここに大衆雑誌編集者にしてかつ政治家であったシャルトンの良識とその限界を見ることができよう。

II. ルヴェルトガ『琉球諸島紀行』

すでに述べたように、ルヴェルトガの「琉球諸島紀行は『ル・ツール・デュ・モンド』1882年度の第2巻に載った(PP.250-256、木版画五葉、地図一葉)。が、ルヴェルトガがフランスの巡洋艦「クロシュトリイ」(Clocheterie)にて那覇港へ入ったのは1877(明治10年)年5月である。ルヴェルトガの紀行文はおよそ5年おくらで発表されたことになる。いかなる経緯で、ルヴェルトガの原稿が約5年おくらで『ル・ツール・デュ・モンド』に載ったのか、いまのところ明らかでない。それどころか、ルヴェルトガがいかなる人物であったのかも全くわかっていない。今年(1991)の夏、沖縄研究で知られるフランスの社会人類学者パトリック・ベルヴェル(Patrick Bellevaire)氏が来沖の際、ルヴェルトガについて教えを乞うたが、沖縄関係フランス語文献について知らないことはないと思われる氏も首を横に振ってみせるだけであった。ルヴェルトガについては何ら知るところがないままにその紀行文を以下に紹介する。

ルヴェルトガの紀行文のタイトルはフランス語では“琉球諸島”となっているが、『ル・ツール・デュ・モンド』に載っている内容に即していえば、沖縄本島だけへの訪問記である。その紀行文は、那覇港の美しさ、沖縄の風物、首里城訪問などの記述からなる。

ルヴェルトガらが那覇港に入った時、はじめにフランス船に近づき、船に乗り込んできたのはカンザシ(Kansachi)で髪をとめた琉球の役人たちであった。が、エド政府から派遣された役人が現われると、琉球の人々は役人の眼からのがれるかのごとくフランス船からそそくさと退散してしまった。琉球の人々は髪を別にすれば、日本人とそっくりで、片言の日本語も通じた、という。エド政府から派遣された役人は、“かなり洗練された顔立ちで、いかにも頭の良さそうな若い男”である。みごとに“洋服”を着こなしている。アヤシ・タネモリ(Ayashi Tanemori)と名をつけた(ハヤシをフランス人らしくアヤシと聞き違えたと思われる。もっとも、このアヤシ・タネモリについても未詳)。このアヤシは、次のような、実に怪しげなことをフランス人たちに言っている——この島の人々はあわれな未開人で、ヨーロッパ人たちをおそれていますよ。彼らから何かを聞き出したいのであれば、絶対にこの私の仲介による必要があります、と(このアヤシなる高級役人の説明がまちがっていることは、1816年のバジル・ホルの来琉以来、琉球の人々が異国船とどのように接してきたかを思い起せばたりることであろう)。また、このヤマトから来た役人は、不用意にも、フランス人たちに対して次のようなことも言っている——琉球王の尚泰(Sho-dai)は彼の歳と同じ数の女、すなわち36人の女がいて、娘1人、息子2人で、長男は18歳である。自分もまた王にもその家族にも会ったことはない、と。(つづく)

(もりた もうしん：教養部教授・仏文学)



沖縄関係図書新着案内

注) 各資料末尾の記号は請求記号です。館内で探す際の手がかりとなります。

0類 総記

1. 沖縄の図書館と図書館人 (山田勉) 沖縄図書館史研究会 1990 010.2-YA
2. 沖縄の読書施設: 市町村立の読書施設調べ 全国移動図書館研究集会実行委員会事務局 1989 016.2-OK
3. ブックレット2 月刊沖縄社[1989]特集: 終戦秘話「台湾の8月15日」051-BU
4. 家庭画報 第32巻9号 世界文化社 1989 特集: 沖縄・南方王国への旅 051-KA
5. 季刊銀花 第82号 文化出版局 1990 特集: 沖縄人の食卓、水と土と光を食す 051-KI
6. 最新データ・沖縄1990 沖縄タイムス社 1990 059.1-SA
7. 琉球王国評定所文書 第4,5巻 (琉球王国評定所文書編集委員会) 浦添市教育委員会 1990 093.3-R98
8. 八重山古典音楽楽譜付工工四全巻 (安室流協和会) 改訂版 安室流協和会 1986 097.6-AM
9. 琉球古典音楽安富祖流工工四 上中下巻 (宮里春行) 安富祖流絃聲會 1990 097.6-MI
10. 声楽譜附八重山古典民謡工工四 上下巻 (大浜安伴) 大浜安伴 1976 097.6-OH
11. 初心者地謡伴奏工工四 [正] 続大湾トキ 1988-1989 097.6-OW
12. 琉球箏曲声楽譜付工工四 上、中、下、拾遺 (琉球箏曲保存会) 琉球箏曲保存会 1978 097.6-RY

13. 創作舞踊声楽譜附工工四 初巻 (城間徳太郎) 城間徳太郎古典音楽研究所 1986 097.6-SH

1類 哲学

14. 久遠の彼方: 琉球の精神世界ニライ・カナイを語る (高安六郎) 龍泉 1991 169-TA

2類 歴史

15. 分村50年の足跡: 伊是名村分村50周年記念誌 伊是名村 1989 219-IZ
16. 沖縄企業録 1990,1991 沖縄タイムス社 1990 280.36-OK
17. 沖縄のサムレー: 家譜にみる士族 (比嘉朝進) 風土記社 19-- 288.2-HI
18. 徳之島阿権高崎家系図 (松田清) 高崎忠久 1985 288.2-MA
19. 宇佐瑞慶覧 瑞慶覧長徳 1988 288.3-US
20. 首席判事物語 (平田清祐) 1990 289-HI
21. アール・ブール: 人と時代 (伊佐眞一) 伊佐牧子 1991 289-IS
22. 大城孝蔵: ダバオ開拓の祖 (石田磨柱) 宜野座通男 1991 289-IS
23. キヤン真栄: その人と業績を語る 喜屋武真栄後援会 1989 289-KY
24. 学外と私 (真喜志康二) 1987 289-MA
25. 大西郷と沖永良部島 (明治百年編集委員会) 和泊町 1968 289-ME
26. 沖縄経営者列伝 第一巻 現代経営出版

- 1989 289-OK
27. 最後の特派員：沖縄に散った新聞記者
(織井青吾) 筑摩書房 1991 289-OR
28. 大山光伝(大山朝常) 1990 289-OY
29. 龍飛鳳舞：西銘順治のあゆみ 西銘順治
後援会 1985 289-TA
30. 谷本唯夫伝：沖縄メイワ創業者 沖縄メ
イワ創業者伝発刊委員会 1989 289-TA
31. 我が人生の歩み 山城盛孝 1991 289-YA
32. 宮古の史跡をたずねて 宮古郷土史研究
会 1989 290.2-MI
33. 南島の地名 1991年 第4集(南島地名
研究センター) ボーダーインク 1991
290.34-N48
34. 琉球その後(鳥越憲三郎) 朝日新聞社
1955(アサヒ写真ブック15)
290.38-To67
- 3類 社会科学
35. 沖縄返還同盟機関紙「沖縄・小笠原新聞
「沖縄」縮刷版 沖縄返還同盟の運動
を記録する会 1988 312-OK
36. 沖縄解放の勝利に向けて 沖縄解放の勝
利に向けて刊行委員会 1987 312-OK
37. 沖縄における社会組織の特質と地域社会
の変動に関する実証的研究(鷓飼照喜)
琉球大学 1990(平成元年度科学研究費
補助金(総合研究A) 研究成果報告書
361.4-UK
38. 労働福祉ハンドブック(沖縄県商工労働
部労政雇用課) 沖縄県商工労働部労政雇
用課 1989 366.3-OK
39. 沖縄の女性物語(栄光に輝く沖縄の女性
物語編集委員会) 沖縄教文出版社 1989
(シリーズ沖縄の女性活動記) 367.2-EI
40. 那覇ロータリークラブ30年のあゆみ(有
村喬ほか) 那覇ロータリークラブ記念誌
編集委員会 1989 368.83-NA
41. 若竹：創立25周年記念誌(沖縄県遺族連
合会青壮年部) 沖縄県遺族連合会青壮年
部 1985 369.37-OK
42. 嘉手納町母子世帯実態調査報告書(嘉手
納町母子寡婦福祉会、嘉手納町社会福祉
協議会) 嘉手納町母子寡婦福祉会 1989
369.41-KA
43. 輝け大地の子 大地保育園 1988
(園だより「大地」が本になった パー
ト8) 369.42-KA
44. 見返りなき道(新垣秀雄) 沖縄教文出版
1991 370.4-AR
45. 創立30周年記念誌 那覇市立教育研究所
1989 370.6-SO
46. 要覧 平成元年度 沖縄県立教育セン
ター[1989] 374.37-OK
47. 追憶：沖縄県立農林学校(宮里清松)
1989 376.6-MI
48. 琉球大学同窓会会員名簿 昭和61年版琉
球大学同窓会事務局 1986 377-RY
49. 生活文化研究所年報 第1輯-第3輯
ノートルダム清心女子大学生生活文化研
究所 1987-1989 377.3-NO
50. 龍潭 第9号 龍潭同窓会 1990
377.4-RY
51. ひめゆり同窓会名簿(東京ひめゆり同
窓会) 1975 377.4-TO
52. 沖縄県養護学校体育大会：第1回 沖縄
県養護学校体育連盟[1989] 378-DA
53. 生涯学習のまちづくりに関する調査報告
書(那覇市教育委員会) 那覇市教育委員
会 1989 379-NA
54. 放送利用の大学公開講座に関する実施報
告書：昭和62年度 琉球大学[1987]
379.4-R98
55. アダンの葉蔭に：続・沖縄の民俗とここ
ろ(安陪光正) 西図協出版 1982
380.4-A12
56. みんぞく 第5号 沖縄国際大学文学部
社会学科 1991 381-OK
57. 大嘗祭の成立：民俗文化論からの展開
(谷川健一) 小学館 1990 381-TA

58. わたしの民俗学 (谷川健一) 三一書房
1991 381-TA
59. 奄美文化を探る：文芸・民俗・歴史からのアプローチ (岩瀬博、山下欣一) 海風社 1990 (南島叢書 56) 382-IW
60. 吐カ喇列島民俗誌 第一巻 悪石島・平島篇 (下野敏見) 1966 382-SH
61. 琉球服装の研究 (辻合喜代太郎、橋本千榮子) 関西衣生活研究会 1991 383.1-TS
62. 沖縄の遊行芸：チョンダラーとニンブチャー (池宮正治) ひるぎ社 1990 385.7-1K
63. かつれんの民話 離島篇 (遠藤庄治) 勝連町教育委員会 1990 388-EN
64. アカノコ (比嘉豊光) 字楚辺誌編集室 1990 (字楚辺誌資料 no.20) 388-HI
65. 奄美民話ノート (本田碩孝) 郷土文化研究会 1989 (奄美民話集 4) 388-HO
66. 沖縄・佐敷町の昔話 (立命館大学説話文学研究会、佐敷町教育委員会) 佐敷町教育委員会 1989 388-RI
67. くらやみのキジムナー (とくだきよ、斎藤博之) 西日本図書館コンサルタント協会 1980 388-To35
68. 座喜味の民話 (読谷村教育委員会歴史民俗資料館) 1990 (読谷村民話資料集10) 388-Y81
69. 王権の位相 (松原正毅) 弘文堂 1991 389-MA
70. 沖永良部島の祖先崇拜と社会：知名町正名地区調査報告書 (南山大学文化人類学研究会村落調査サークル) 南山大学文化人類学研究会 1990 389-YO
71. 熱風・マブニの心 (被爆35周年原水爆禁止沖縄大会実行委員会、沖縄県マスコミ労働組合協議会) 1980 392-HI
72. 金武町と基地 (「金武町と基地」編集委員会) 金武町企画開発課 1991 392-KI
73. この土のうえにねて (沖縄県マスコミ労働組合協議会) 1979 392-OK
- 4類 自然科学
74. 奄美諸島・トカラ列島の自然史科学的総合研究(1) (山口敏ほか) 国立科学博物館 1989 (国立科学博物館専報 第22号) 402-YA
75. 深海遠洋性チャートに含まれる遠洋粘土鉱物の堆積化学的研究 (山本聰) 琉球大学 1990 (平成元年度文部省科学研究費補助金(一般研究C)研究成果報告書) 452.15-YA
76. カラー空中写真 西表地区1-4、石垣地区1-2 454.8-Ka62
77. ムー大陸は琉球にあった！：深海底調査でわかった“巨大陥没”の真実 (木村政昭) 徳間書房 1991 455-KI
78. 南の島の自然観察：沖縄の身近な生き物と友だちになろう (土屋誠、宮城康一) 東海大学出版会 1991 462-TS
79. 南西諸島ヤンバル地域におけるU字型側溝への小動物の落下について (千木良芳範) 世界自然保護基金日本委員会 1989 480.4-CH
80. AKAMATA No.5,6 沖縄両生爬虫類研究会 1988-1989 487.05-AK
81. R,birds：沖縄野鳥研究会報告 No.1 沖縄野鳥研究会 1988 488.05-RB
82. 沖縄から学ぶ長寿の秘訣 (松崎俊久) 杉並通信社 1989 (まい・らいふノート 1) 498.38-MA
- 5類 技術
83. 亜熱帯離島地域における新エネルギー技術開発利用に関する調査研究 地域産業技術振興協会 1986 501.6-AN
84. 2次産業の活性化を求めて：機械・金属製造業の実態報告 地域産業技術振興協会 1985 502-NI

85. 沖縄の水資源問題：環境地盤工学上の諸問題として 沖縄開発庁北部ダム事務所 [1989]510.4-OK
86. 亜熱帯・海洋性気候下におけるコンクリート中の鉄筋の発錆および防錆に関する実験的研究（具志幸昌） 1987 511.7-GU
87. 沖縄県プロジェクト公共事業総覧 平成3年・4年度版（長浜博文） 沖縄社研出版 1991 519.9-NA
88. 建築文化 第44巻9 彰国社 1989 特集2：変容する沖縄の風景 520.5-KE
89. 南島・沖縄の建築文化 その1（建築思潮研究所） 建築資料研究社 1991（住宅建築別冊 40）521.9-KE
90. 民家と町並 九州・沖縄（澤村仁） 至文堂 1990（日本の美術 290）521.9-SA
91. 熱帯・亜熱帯地域におけるソーラーシステムの普及可能性に関する調査研究報告書 昭和57.58年度、地域産業技術振興協会 1983-1984 528.2--NE
92. 大島紬勝手論（笠畑保）第2版 笠畑保 1990 586.457-KA
93. 長寿と沖縄の食文化 地域産業技術振興協会 1985 596.1-CH
- 6類 産 業
94. 地方都市活性化の方策 抜刷版 総合研究開発機構 1986 601-CH
95. 沖縄における第2次産業の活性化プロジェクト 地域産業技術振興協会 1984 601-OK
96. 沖縄県産業技術開発基金制度の創設について 地域産業技術振興協会 1984 601-OK
97. 太陽光エネルギーを利用した離島地域開発の社会システムに関する調査研究報告書 機械システム振興協会 1985 601-TA
98. バイオマスランド構想：沖縄におけるバイオマスータルシステム構築のための基本計画 地域産業技術振興協会 1985 602-BA
99. 物流システムを活用したニュービジネスに関する調査研究報告書 南西地域産業活性化センター[1991]602-BU
100. 地域プロジェクトの複合化システムに関する調査研究[報告書Ⅰ]、報告書Ⅱ 地域産業技術振興協会 1982-1983 602-CH
101. 地域産業技術振興事業報告書 地域産業技術振興協会 1982 602-CH
102. 既存制度活用による地域技術開発実行計画 地域産業技術振興協会 1984 602-KI
103. 公共事業が地域技術の進展へ与える影響調査：公共事業が経済活動の主体である沖縄県の例 要約版 地域産業技術振興協会 1985 602-KO
104. ニューメディア活用の事例 地域産業技術振興協会 1985 602-NY
105. 沖縄地域におけるバイオインダストリー振興対策調査研究報告書 発酵工業協会 バイオインダストリー振興事業部 1986 602-OK
106. 沖縄地域における情報化の実態に関する調査研究 産業研究所 1986 602-OK
107. 沖縄におけるバイオマスの現状と展望 地域産業技術振興協会 1986 602-OK
108. Parasitism of *Pratylenchus* spp. to "Lovell," "Nemaguard" and "Okinawa" peach/ Donald Eugene Stokes. --University Microfilms International, 1972 625.18-ST
109. 豚のレプトスピラ症（沖縄県農林水産部畜産課、沖縄県家畜衛生試験場）1989（家畜衛生資料 No.6）645.5-OK
110. 沖縄荒廃林地復旧技術現地適応化調査報告書（林野庁造林保全課）1989 653-R1

111. 那覇青年会議所創立30周年記念誌：那覇JC昭和のあゆみ 那覇青年会議所 1989 671.7-NA
112. 沖縄証券三十年史：1960年～1990年（沖縄証券） 沖縄証券 1991 676.39-OK
113. 沖縄県自由貿易地域の拡大に関する調査報告書：平成元年度沖縄県商工労働部企業立地対策室委託調査 国際貿易投資研究所 1990 678.11-KO
114. 沖縄県におけるリゾート化の現状と課題（小濱研究室）小濱研究室 1990 688-KO
115. 北部、離島地域における観光振興について（沖縄県商工会連合会）[1988] 688-OK
- 7 類 芸 術
116. 田中一村作品集：NHK日曜美術館「黒潮の画譜」（田中一村）日本放送出版協会 1985 721.9-TA
117. ハブ捕り（新里堅進）新潮社 1991 726-SH
118. ヤマタイカ 第1巻～第5巻（星野之宣）潮出版社 1987 726.1-HO
119. 日本の布：原始布探訪 平凡社 1989（別冊太陽 67）内容：芭蕉布・南の島、沖縄の布。753.3-NI
120. 琉球民謡インデックス（備瀬善勝、當山安一）ヌージュン企画 [19--] 767.039-BI
121. 作曲集ふるさと（糸洌長良） 1990 767.7-IT
122. 絃聲のひびき 安富祖流絃聲会 [1988] 768.11-GE
123. 創立30周年記念誌 野村流古典音楽保存会 1985 768.11-NO
124. 屋嘉比朝奇工四（沖縄県教育委員会）沖縄県教育庁文化課 1989 768.11-OK
125. 大正琴のしらべ 第2集（池原ツル） 1989 768.12-IK
126. 沖縄藝能史研究会会報 第1号～第149号 沖縄藝能史研究会 1975-1989 770.5-052
127. 宮古体育スポーツ百年の歩み 資料編（小禄恵良）宮原企画 1989 780.2-OR
128. 宮古の野球：創立40周年記念誌（宮古野球連盟40周年記念誌編集委員会）宮古野球連盟 1989 783.7-MI
129. Traditional Karate-Do: Okinawa Goju Ryu Vol.1-3/by Morio Higaonna. --Minato Research, 1985-1989
Contents:
Vol.1:The fundamental techniques.
Vol.2:Performances of the Kata.
Vol.3:Applications of the Kata. 789.2-HI
130. Elite Karate techniques / David Mitchell. -- A&C Black, 1989 789.2-MI
- 8 類 言 語
131. The Okinawan language : a synchronic description / by Owen Loveless. -- University Microfilms International, 1963 880-LO
132. A generative study of the inflectional morphophonemics of the Shuri dialect of Ryukyuan / by David Edward Ashworth. -- University Microfilms International, 1973 883-AS
- 9 類 文 学
133. 古琉球の思想（比嘉実）沖縄タイムス社 1991（タイムス選書 2-5）900-HI
134. 川岸で 脈発行所 1991（比嘉加津夫文庫 8）930-HI
135. 鬼女 脈発行所 1991（比嘉加津夫文庫 12）930-HI
136. きりぎりす（長堂英吉）比嘉正信 1986（創作童話集 1）930-NA
137. ランタナの花の咲く頃に（長堂英吉）新

- 潮社 1991 930-NA
 138. 落葉の掃き寄せ (具志堅武正) 具志堅武正 1990 940-GU
 139. 残照 (樋川游) [19--] 940-HI
 140. 鼓石 (ちぢんいし) (沖縄エッセイストクラブ) 1991 (沖縄エッセイストクラブ作品集) 940-OK

141. あの日の約束は断面体で (島袋勝彦) 1985 940-SH
 142. 沖縄戦：三中隊兵士の手記 (南義雄) 1989 950-MI
 143. 沖縄文学全集 第20巻 文学史 (沖縄文学全集編集委員会) 国書刊行会 1991 980-OK

本学教官著作寄贈図書ご案内

1991年5月～9月

注) 各資料末尾の記号は請求記号です。館内で探す際の手がかりとなります。

<法文学部>

- 上里 賢一
 琉球漢詩選 島尻勝太郎選 上里賢一注釈
 ひるぎ社 1990 K990-UE
 中国・琉球交流史 徐恭生著 西里喜行・
 上里賢一共訳 ひるぎ社 1991 K201.
 18-JO
 保坂 廣志
 戦争動員とジャーナリズム—軍神の誕生—
 ひるぎ社 1991 K070.2-HO
 津波 高志
 韓国社会の文化人類学 杉山晃一・櫻井哲
 男編 弘文堂 1990 389.21-SU

<教育学部>

- 泉 恵徳
 シューベルト：冬の旅 (CD) Muse (発売)
 1988 (録音) 760.8-SC

<理学部>

- 山里 清
 サングの生物学 東京大学出版会 1991
 483.3-YA

山口正士・諸喜田茂充

- Aquaculture in tropical areas. 諸喜田茂充
 他編 Midori Shobo c1991 666-AQ
 木村 政昭
 ムー大陸は琉球にあった! 徳間書店
 1991 K455-KI
 土屋 誠
 南の島の自然観察 東海大学出版会 土屋
 誠・宮城康一共編 1991 K462-TS

<工学部>

- 具志 幸昌
 亜熱帯・海洋性気候下におけるコンクリート
 中の鉄筋の発錆および防錆に関する実
 験的研究 具志幸昌 1987 K511.7-GU

<農学部>

- 秋永 孝義
 物流システムを活用したニュービジネスに
 関する調査研究報告書 南西地域産業活性
 化センター 1991 K602-BU

図書館事情

〔会議〕

◎図書館運営委員会

第192回 平成3年11月20日（水）

協議事項

1. 大学改革の推進について（図書館関係）
2. 平成4年度大型コレクションについて
3. 沖縄研究資料調査収集専門委員会委員の委嘱について

報告事項

1. 平成3年度大型コレクション要求結果について
2. ILLシステムの試験的利用について
3. 図書館専用電算機導入の進捗状況について
4. 1992年度外国雑誌の購入予定について
5. 沖縄研究資料調査収集専門委員会について

◎沖縄研究資料調査収集専門委員会

協議事項

1. 今年度「沖縄関係文献資料保存事業計画」について
2. 平成4年度「沖縄関係文献資料保存事業計画」について
3. 委員の改選について

報告事項

1. 西日本図書館学会における研究発表について

書庫の入室時間が延長されました

これまで、利用時間の制限がありました本館書庫内資料のうち2、3階部分（第2～5層）が、夜間開館時も利用できるようになりました。

平日は19時まで、土曜日は15時まで書庫への入室が可能です。大いにご活用ください。

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第24巻 第4号〔通巻第93号〕

平成3年12月21日 発行

発行 琉球大学附属図書館 〒903-01 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

電話 098 (895) 2221 内線 (2143) 編集 びぶりお編集委員会